



27:15 それからリベカは、家の中で自分の手もとにあった、上の息子エサウの衣を取って来て、それを下の息子ヤコブに着せ、

27:16 また、子やぎの毛皮を、彼の両腕と、首の滑らかなところに巻き付けた。

27:17 そうして、自分が作ったおいしい料理とパンを、息子ヤコブの手に渡した。

27:18 ヤコブは父のところに行き、「お父さん」と言った。イサクは「おお。おまえはどれかね、わが子よ」と尋ねた。

27:19 ヤコブは父に、「長男のエサウです。私はお父さんが言われたとおりにしました。どうぞ、起きて座り、私の獲物を召し上がってください。そうして、自ら私を祝福してください」と答えた。

27:20 イサクは、その子に言った。「どうして、こんなに早く見つけることができたのかね、わが子よ。」彼は答えた。「あなたの神、【主】が私のために、そうしてくださったのです。」

27:21 そこでイサクはヤコブに言った。「近くに寄ってくれ。わが子よ。おまえが本当にわが子エサウなのかどうか、私はおまえにさわってみたい。」

27:22 ヤコブが父イサクに近寄ると、イサクは彼にさわり、そして言った。「声はヤコブの声だが、手はエサウの手だ。」

27:23 ヤコブの手が、兄エサウの手のように毛深かったので、イサクには見分けがつかなかった。それでイサクは彼を祝福しようとして、

27:24 「本当におまえは、わが子エサウだね」と言った。するとヤコブは答えた。「そ

うです。」

27:25 そこでイサクは言った。「私のところに持って来なさい。わが子の獲物を食べたい。そうして私自ら、おまえを祝福しよう。」そこでヤコブが持って来ると、イサクはそれを食べた。またぶどう酒を持って来ると、それも飲んだ。

27:26 父イサクはヤコブに、「近寄って私に口づけしてくれ、わが子よ」と言ったので、

27:27 ヤコブは近づいて、彼に口づけした。イサクはヤコブの衣の香りを嗅ぎ、彼を祝福して言った。「ああ、わが子の香り。

【主】が祝福された野の香りのようだ。

27:28 神がおまえに天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を与えてくださるようになる。

27:29 諸国の民がおまえに仕え、もろもろの国民がおまえを伏し拝むように。おまえは兄弟たちの主となり、おまえの母の子がおまえを伏し拝むように。おまえを呪う者がのろわれ、おまえを祝福する者が祝福されるように。」

ヤコブは父をだましました。しかし、かつてはエサウから長子の権利を譲ると言われたのですから、全面的に間違っているわけでもないでしょう。父と兄に自分の正当性を訴えることもできたでしょう。しかし父は自己のために兄エサウを愛し、兄エサウはかつての約束に対して誠実ではなかったのです。

ヤコブには兄エサウとの約束に沿って、調子の権利を手に入れたのですが、その方法が間違っていました。後にエサウの恨みをかい実家にいらなくなるのです。そんなヤコブを通してわかることは、神に期待することの大切さです。エサウは神からの祝福（長子の権利）など軽んじていまし

たが、ヤコブはこれを重要なものとしたのです。この点だけはヤコブに信仰があったと言えます。

誰にでも欠点があり、性格み多少の問題があるでしょう。しかし神様に期待し、信頼することににおいては、熱心でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

